科目名 Subject	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｽﾀｲﾘｽﾄ演習 Global Stylist Practice		教員名	ヘアチーム	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選択必修	授業形態	演習	時間	30
実践的教育	×				
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	◎	◎	◎	◎
科目の概要	インバウンドが増加傾向にある中、それに伴い美容室に来店する外国人客も増えつつある。さらに、将来海外で働く可能性も視野に入れて考えた場合、英語力は必須である。 本授業においては、2年次前期までに習得した英語力を活かしながら、美容技術を通して英語が学べる授業を展開する。				
授業の目標	美容技術を施しながら英語を話すという動きのある環境の中で、活きた英語を話すことができるようになる。 また外国のお客様の要望を聞いて理解し、それに英語で応え、コミュニケーションをとることができる。				
時間外学習 （予習・復習）	学習した英語の美容専門用語や接客する上で必要なコミュニケーション英語を、毎回授業終了後に復唱し、身体に沁み込ませる。そして次回学習する内容に目を通し、会話の内容を理解できるようにしておく。 なお、１回の予習復習に対し、合計６０分～９０分程度を想定している。				
教科書・教材	教科書	ヘアスタイリストのためのHAIR SALON ENGLISH/Brett Yamashita著（Canada Styles Ltd.）			
	教材				
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	授業態度50%、期末試験50%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
学生へのフィードバックの方法	定期試験の要点について、掲示にて解説を行います。				
	※解説手段は掲示に限りません。				
履修上の注意	遅刻、欠席はスキルアップに支障が出る為、原則認めません。また、そのために再度説明する時間は設けません。授業中の私語、勝手な退室等の不適切と思われる行為があった場合は、欠席と同等の扱いとします。				
本科目履修と関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第１回	オリエンテーション グローバルスタイリストとしてどうあるべきかを話し合う	グローバルスタイリストを目指す為の自覚を持つことができる	教科書配布
第２回	日本と海外の美容師の違いを検証する（システム、技術、勉強会）	日本と海外の違いを認識することができる	Lesson1 （お客様を迎える）
第３回	美容室で必要な英会話や道具、器具の英語表現を学ぶ（ネイティブ講師を交えて）	普段自分達が使っている英語表現とのズレを理解し、正しい表現を身に付けることができる	Lesson1 （お客様を迎える）
第４回	（3）のロールプレーイングを行う	実際に声に出すことで、英語に慣れ親しむことができる	Lesson2 （予約を受ける）
第５回	ブロードライの実習（ボブスタイル）を行う	海外で重要視されているブロードライのスキルを向上させることができる	Lesson2 （予約を受ける）
第６回	ブロードライの実習（レイヤースタイル）を行う	ロールブラシの使い方のスキルを向上させることができる	Lesson3 （待ち時間の対応）
第７回	ウィービングの実習（ホイルワークトレーニング）を行う	海外で需要の高いハイライトのホイルワークのスキルを向上させることができる	Lesson4 （お見送り）
第８回	ショートスタイルの為のキャップハイライトを学ぶ	実際に薬剤を使用してバランスを確認し理解することができる	Lesson5 （カウンセリング）
第９回	シャンプー実習と英会話（ロールプレイ）を行う	シャンプー時に必要な英会話が習得できる	Lesson6 （シャンプー）
第１０回	ネイティブスピーカーを交えてのディスカッションを実施する	実際のコミュニケーションを想定し、実践することができる	Lesson6 （シャンプー）
第１１回	海外経験者を招いて、技術のデモンストレーションを行う	体験談等を聞きながら海外における現場の実際を知ることができる	Lesson7 （カット）
第１２回	（11）の質疑応答、ディスカッションを行う	ディスカッションをすることで、海外における現場の実際を理解することができる	Lesson7 （カット）
第１３回	デジタルパーマ、コールドパーマ、クリープパーマ等の違いを検証する	よりグローバルな知識を身に付けることができる	Lesson8 （カラーパーマ）
第１４回	デジタルパーマ、コールドパーマ、クリープパーマ等の違いを理解した上で実習を行う	グローバルな知識を身に付けた上で技術を実践することができる	Lesson8 （カラーパーマ）
第１５回	全ての技術の復習をする（用語の確認等）	習得したことを改めて確認することで、内容を定着させることができる	